

# 新型コロナウイルス対処に資する教育支援

(写真は全て大阪府における教育)



新型コロナウイルスに関する教育



消毒要領に関する教育



消毒要領の実演指導



感染防護衣着用要領の説明



感染防護衣着用要領の実演指導

中部方面隊（総監 野澤陸将）は、7月29日（水）から8月18日（火）の間に第3師団（師団長 梶原陸将（当時））等による計4回の新型コロナウイルス対処に資する教育支援を大阪府等において実施した。

新型コロナウイルスに関する基本的な事項の説明に加え、感染防護衣着用要領や、消毒要領について実演指導を交えつつ、中部方面隊の持っているノウハウを民間宿泊施設従業員等に伝授した。

本教育支援は、中部方面隊が地元との信頼を更に深めるための一助となった。



方面総監統率方針  
任務完遂

発行所

〒664-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘7-1-1  
電話：072(782)0001

陸上自衛隊

中部方面総監部広報室

## 第10師団

### 北海道での実動対抗演習参加

8月15日（土）、第10師団（師団長 鈴木陸将）は、北海道訓練センターにおいて実施される実動対抗演習参加のため、北海道の上富良野演習場に向けて前進した。

第10師団は、同演習場において準備訓練を実施した後、9月に矢別演習場での第5旅団との実動対抗演習に臨む。



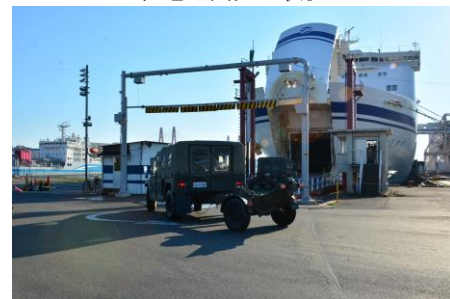
乗船前の検温



駐屯地出発の状況



フェリーへの乗船（隊員）



フェリーへの乗船（車両）

# 防衛副大臣 部隊視察

8月19日(水)、山本防衛副大臣が大津駐屯地及び自衛隊京都地方協力本部に來隊された。山本副大臣は状況報告や懇談等を通じ、現場の状況について確認された。



予備自衛官補との懇談



出迎えの状況

# 戦車実弾射撃及び 対空実弾射撃訓練

第13旅団(旅団長 山根陸将補(当時))及び第14旅団(旅団長 藤岡陸将補(当時))は、それぞれ戦車実弾射撃(あいば野演習場)及び重機関銃による対空実弾射撃(佐多射場)を7月下旬から8月中旬にかけて実施し、その練度向上を図った。



戦車実弾射撃



対空実弾射撃

# 募集広報の日

各駐屯地において募集広報の日として、募集対象者(受験直後又はこれから受験する者)及びその保護者等に対して陸上自衛隊を紹介するイベントが各師・旅団等の計画により実施された。  
募集広報の日は、中部方面隊(総監 野澤陸将)隷下の第3師団(師団長 梶原陸将(当時))、第10師団(師団長 鈴木陸将)、第13旅団(旅団長 山根陸将補(当時))、第14旅団(旅団長 藤岡陸将補(当時))及び中部方面混成団(団長 芝1佐)が主体となり、7月下旬から8月にかけて実施した。各師・旅団等は合わせて10か所の駐屯地で募集広報の日を実施し、その参加者は約800名を数え、募集対象者等の自衛官という職業への関心の高さを伺うことができた。

# 中部方面総監部 幕僚長 離・着任

8月24日(月)、第36代中部方面総監部幕僚長 木口陸将補は約1年5か月の勤務を終え、防衛研究所に異動された。  
8月25日(火)、第37代中部方面総監部幕僚長として中野陸将補が着任された。



離任された木口陸将補



着任された中野陸将補

# 中部方面総監 部隊視察

8月4日(火)から5日(水)の間、中部方面総監(野澤陸将)は、自衛隊岐阜地方協力本部において巡視、懇談等を行い、現状を確認した。また、訓示においては統率方針及び要望事項を周知した。



状況報告の状況



巡視の状況

各駐屯地において募集広報の日として、募集対象者(受験直後又はこれから受験する者)及びその保護者等に対して陸上自衛隊を紹介するイベントが各師・旅団等の計画により実施された。  
募集広報の日は、中部方面隊(総監 野澤陸将)隷下の第3師団(師団長 梶原陸将(当時))、第10師団(師団長 鈴木陸将)、第13旅団(旅団長 山根陸将補(当時))、第14旅団(旅団長 藤岡陸将補(当時))及び中部方面混成団(団長 芝1佐)が主体となり、7月下旬から8月にかけて実施した。各師・旅団等は合わせて10か所の駐屯地で募集広報の日を実施し、その参加者は約800名を数え、募集対象者等の自衛官という職業への関心の高さを伺うことができた。



装備品展示 (千僧駐屯地)



ラッパ吹奏 (金沢駐屯地)



漕舟訓練体験 (海田市駐屯地)



隊員との懇談 (善通寺駐屯地)



コンパス訓練体験 (大津駐屯地)

# 中部方面隊 60年の歩み



中部方面隊発足時の伊丹駐屯地



1988年に導入されたF H 7 0



2018年に導入された16式機動戦闘車

中部方面隊は、昭和35年（1960年）1月14日に発足し、今年で60周年を迎えます。この節目に中部方面隊の60年の歩みについてご紹介いたします。



第1次カンボジアPKO派遣



阪神・淡路大震災



伊勢志摩サミット支援事前訓練

年	出来事
1960	中部方面隊発足
1963	北陸雪害（金沢）に伴う災害派遣
1964	東京オリンピック支援
1969	水害災害（広島）に伴う災害派遣
1970	日本万国博覧会（大阪万博）支援
1972	台風10号に伴う災害派遣
1974	7月集中豪雨に伴う災害派遣
1975	重油流出事故（水島）に伴う災害派遣
1977	南四国災害派遣（台風5号・6号）
1977	水害災害（隠岐島）に伴う災害派遣
1980	改編 第2混成団
1983	豪雨災害派遣（島根・山口）
1988	豪雨災害派遣（広島）
1992	第1次カンボジアPKO派遣
1995	阪神・淡路大震災に伴う災害派遣
1996	ロシアタンカー重油流出に伴う災害派遣
1997	第5次ゴラン高原PKO派遣
1998	ホンデュラス国際緊急援助隊派遣
2002	第13旅団改編
2004	第3次東チモールPKO派遣
2005	第5次イラク復興支援群派遣
2006	第6次イラク復興支援群派遣
2007	第3次東チモールPKO派遣
2008	第23次及び第24次ゴラン高原PKO派遣
2009	国際連合ネパール政治ミッション派遣
2010	平成21年豪雨に伴う災害派遣
2011	ハイチ国際緊急援助隊派遣
2012	東日本大震災に伴う災害派遣
2013	第7次ハイチ国際緊急援助隊派遣
2016	伊勢志摩サミット支援
2018	平成28年熊本地震に係る災害派遣
2019	令和元年台風19号に係る災害派遣
2020	令和2年7月豪雨に伴う災害派遣

1984 1993  
方面各隷下部隊の改編

## 中部方面隊 60周年記念行事



令和2年10月4日（日）  
陸上自衛隊 伊丹駐屯地



本年度の記念行事は、新型コロナウイルス流行の影響により一般公開はされませんが、そのために、本年度は当日10時よりライブ配信等を実施します。

〈中部方面隊〉  
〈公式ホームページ〉



## イベント情報

実施予定日	行事名	場所	問い合わせ先
延期 (10月下旬から11月下旬ごろ)	あきつほっと安心 ネットチャレンジ フェスタ	安芸津B & G 海洋センター	広島地方協力本部 082-221-2957
9月27日	CH-47体験搭乗	明野駐屯地	三重地方協力本部 059-225-0531
10月4日	中部方面隊創隊60周年記念行事	伊丹駐屯地 <small>一般公開なし ライブ配信等計画中</small>	中部方面総監部広報室 072-782-0001
10月上旬	国際学院大学学園祭（高城祭）	国際学院大学	広島地方協力本部 082-221-2957

上記のイベントについて実施・参加予定です（令和2年9月10日現在）。新型コロナウイルス流行の影響により、日程等を変更する場合がありますので事前にご確認ください。

# ふあみさぽ通信 (連載：第45回)

## 高知駐屯地業務隊

高知駐屯地業務隊は、各市町村の地区を担当する関係部外団体等との間で、県内の家族支援に関する協定締結を進め、支援を要望する隊員家族の居住する全ての地区(46コ)と協定を締結することができました。そして、令和元年10月、高知県初の「県下一斉安否確認」の実動訓練を実施しました。

まずは本訓練に先立ち、同年7月に高知駐屯地体育館において説明会を開催しました。説明会では、災害復興法学に詳しい岡本正弁護士(東京在住)による防災講話と第14後方支援隊等による防災関連装備品展示等も行い、参加者に本訓練の重要性をご理解いただくとともに、ご協力をお願いしました。

本訓練は、南海トラフ巨大地震を想定した状況で実施され、家族支援地区担当者28名、家族支援対象家族86名が参加しました。訓練では地区担当者が対象家族宅を訪問し、ご家族の近況を聞き取るほか、避難場所を含めた経路の確認を行いました。その結果、安否確認の実効性向上を図ることができました。地区担当者からは「担当家族の方々が笑顔で迎えてくれた。」「ちゃんと待っていてくれて嬉しかった。」「という感想が寄せられ、関係部外団体等と担当家族との間に心温まる良好な関係が構築できたものと思われまます。

高知駐屯地業務隊は、今後は訓練に参加できなかった家族が多く居住する地域を重視して訓練を行います。漏れのない家族支援態勢の確立に努めて参ります。



支援担当家族と家族会会長



防災関連装備品展示

## CSMの提言



第109教育大隊  
最先任上級曹長  
(大津駐屯地)  
陸曹長  
岡部 隆宏

第109教育大隊最先任上級曹長の岡部曹長です。春の一般陸曹候補生及び自衛官候補生女子の新隊員教育は、各部隊からの支援をいただき、無事に終了することができました。

新隊員は、本当に元気です。しかしながら心の中では、「この先、務まるかな。体力的にしんどいな。」など、色々なことで悩んでいる者も少なくはありません。元氣とは、気持ちの根本であり、悩んだり壁にぶつかつた時に、「よしやってみよう。」と思う気持の持ち方です。そんな時こそ班長や同期が助けてくれます。また、そのような経験をj得て、困っている人が居れば、そつと手を差し伸べられる優しい気持ちも芽生えてくると思ひます。

教育大隊の隊員は、被教育者(新隊員・自動車教習所入校学生・予備自衛官等)に対し、定められた時間で教育を行つていきます。その限られた時間で、ただ課目をこなすのではなく、個人の特性に応じた教え方や、部隊で即戦力となるための指導を一生懸命に行い、自らも一生懸命に学ぶことが大事です。被教育者は、その日、一日の自分に与えられた正面のことを、一生懸命全力で頑張らなければなりません。

今後、各人が教育目的を認識し、実のある教育を行うため、元氣・一生懸命に取り組む、将来を担う隊員が羽ばたいて行けるよう精進いたします。

## 地本のチカラ

(連載第20回：香川地本)

香川地本(本部長 梶原1陸佐)は、新型コロナウィルス拡大防止のため、様々なイベント等を自粛してきた中で、今年度初めての艦艇広報を7月10日(金)から13日(月)の間、香川県坂出港に入港した護衛艦「ふゆづき」の支援を受けて実施しました。

県内の募集対象者等337名に限定した「艦艇特別公開」及び募集対象者のうち希望者124名に対する「ふゆづき乗員との懇談」の2部構成を各日6回行いました。

なお、新型コロナウィルス拡大防止の対策として、検温・手の消毒、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保等を徹底し、見学者の安全確保に留意しました。

「艦艇特別公開」は、1回当たり最大30名の見学者を3グループに分けて実施し、ふゆづき艦内の設備を肌で感じてもらいました。「懇談」では、募集対象者が生の海自隊員の声に真剣な眼差しで聞き入っていました。

参加者からは、「将来の仕事として身近に感じる良い体験となった。」「年齢の近い隊員と懇談できたことで、海上自衛隊に入った後の未来予想図がイメージアツプできた。」「等の声が聞こえました。

また、この機会に今年度から正式に地本マスコットに採用した「モリーヌくん」をPRするため、香川地本の式野1尉が作成した顔着ぐるみを式野1尉自身が着用し、参加者へ「モリーヌくん」のPR活動を行いました。

香川地本は、今後も新型コロナウィルス拡大防止に万全を期し、様々なツールを最大限活用し自衛官等志願へ繋がる各種活動を実施して参ります。



特別公開の様子



懇談風景



香川地本マスコット「モリーヌくん」